



## 2017 Newsletter No. 1 [Volume.30]

発行日 2017年5月25日  
発行 一般社団法人日本リスク研究学会  
会長 前田恭伸  
事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 株式会社国際文献印刷社内  
日本リスク研究学会事務局 発行責任者・情報管理委員会 瀬尾佳美  
TEL : 03-5389-3013 FAX : 03-3368-2822  
mail: sra-japan@bunken.co.jp URL: <http://www.sra-japan.jp/cms/>

日本リスク研究学会は、日本におけるリスク研究と研究者相互の交流を図ることを目的として、1988年に米国に本部をもつ国際的なリスクについての学術団体であるSRA(The Society for Risk Analysis)のJapan sectionとして発足しました。現在では、米国、欧州、東南アジアの諸学会と緊密な連携をとりつつ独自の活動を展開しています。

### 目次

1. [From the president](#) (前田恭伸)
2. [Asia Conference 2018 in 高槻!](#) (小野恭子)
3. [委員会短信](#)
  - 3.1 事業委員会 (岸本充生)
  - 3.2 情報管理委員会 (臼田裕一郎)
  - 3.3 リスクマネージャ委員会 (竹田宜人)
4. [編集担当より](#) (瀬尾佳美)

## 1. [From the president](#)

### 日本リスク研究学会会長 前田恭伸

今回は、本学会とその関連で開催されるいくつかの催しについて紹介します。

今年は、10月27日(金)～29日(日)の3日間、彦根市の滋賀大学にて第30回年次大会が開催されます。今年は久保副会長のご尽力で、日本保険学会との「連携大会」となりました。同じ日に同じキャンパスで日本保険学会の大会が開催され、両学会の会員はふたつの大会を行き来できます。かつて本学会が法人化する前の理事会が30名以上のメンバーで構成されていた時代には、保険会社を代表する理事もいて、損保会社の講堂で年次大会を開催したこともありましたが、その後保険分野との交流は薄いものになっていましたが、今回は保険の分野と本学会の交流を強化するいい機会となるでしょう。ただいま大会案内とともに、企画セッションの申込書と論文発表の申し込み要領が学会ウェブサイトから公開されています(<http://www.sra-japan.jp/cms/>)。多くの皆様の参加をお待ちしております。

12月にはSociety for Risk Analysis (SRA)の年次大会がバージニア州アーリントンで開催されます(12月10日～14日)。”The profession, the practitioners, the research”がテーマとなっています。私としては、学生や若手の研究者、実践者から多くの参加されることを期待したいと思います。SRA年次大会は、例年海外と学生の参加を促すためにinternational travel awardとstudent travel awardを設定していて、これらに選ばされると、旅費について大会側からの補助が得られます。コストを理由に参加を躊躇されている方には大きなサポートとなるのではないかと思います。SRAウェブサイトでは、数日前から発表申込みの受付を始めました(<http://www.sra.org/>)。

2018年3月12日(月)・13日(火)には、高槻市の関西大学社会安全学部にて、第6回東アジアリスク分析学会大会(The Society for Risk Analysis, East Asia Conference 2018)の開催を予定しています。実行委員長は土田昭司元会長です。この大会は本学会と関西大学、それにSRA Taiwan, SRA Korea, SRA Chinaとの共催を予定しています。また、SRA地域委員会(region committee)の代表であるJoe Arvai氏も関心を示してくれました。国内にて海外の研究者と研究できるいいチャンスになるのではないかと思います。

---

その1年後、2019年3月には、今後は第5回 World Congress on Risk が予定されています。今度の会場は、南アフリカ・ケープタウンです。現地とのコンタクトを持つ A. Jovanovic 氏が、現在準備を進めています。また2022年にはその次の World Congress のフランス開催が検討されています。

これらのイベントは、きっと皆さんの視野と人脈を広げるいい機会になるのではないかと思います。日本リスク研究学会としては、今後とも他分野、他の国々との交流を進めていきたいと考えています。

---

## 2. Asia Conference 2018 in 高槻!

---

国際委員会(小野恭子)

2018年3月13-14日に The Society for Risk Analysis, Asia Conference 2018 を関西大学高槻ミューズキャンパスで開催します。アジア地域のリスクに関するトピックを相互に知り、活発な議論が交わされる会となるよう企画しています。多くの皆様のご参加お待ちしております。

### The Society for Risk Analysis, Asia Conference 2018

<http://www.sra-japan.jp/SRAAsia2018/>

開催日：2018年3月13日(火)～14日(水)

会場：関西大学高槻ミューズキャンパス

[http://www.kansai-u.ac.jp/English/about\\_ku/muse\\_map.html](http://www.kansai-u.ac.jp/English/about_ku/muse_map.html)

主催：日本リスク研究学会、関西大学社会安全学部

共催：SRA Korea, SRA Taiwan, SRA China (予定)

実行委員長：土田昭司

テーマ：Communication and collaboration in diversity of risk researches in Asia

基調講演：

講師：Terje Aven (Society for Risk Analysis 次期会長)

テーマ：未定

日程：

発表申し込み〆切：2017年8月10日

アブストラクト提出〆切：2017年11月30日

早期参加申し込み〆切：2017年12月20日

問い合わせ先：[sraasia2018@sra-japan.jp](mailto:sraasia2018@sra-japan.jp)

---

## 3. 委員会短信

---

### 3.1 事業委員会より

事業委員会担当 岸本充生

#### タスクグループ

学会ウェブサイトにてタスクグループ (TG) のページができました (<http://www.sra-japan.jp/cms/taskgroup/>)。第1期の報告書も掲載しています。そして、2017年からは第2期のTGの活動が始まりました。第1期から継続の3つのグループ (リスクコミュニケーション、レギュラトリーサイエンス、リスク教育) に加えて、「食の安全・安心に関わるリスクコミュニケーション研究」と「今年度のリスク」選定の2つのTGができました。メンバーがやや固定されてきた感もありますので、ぜひフレッシュな方々の参加もお待ちしています。関心をお持ちの方は事務局まで連絡ください。また、新しいタスクグループの設立の提案もいつでも歓迎です。

#### シンポジウム

6月29日(木) 午後には総会に続いて、第30回シンポジウムが開催されます。本年は、『社会は新規技術のリスクにどう対応すべきか：事例から学ぶ』と題して、新規技術 (エマージングテクノロジー) をテーマに、それらの持つ潜在的なリスクに社会がどのように対処すればよいのかを、再生医療や生活支援ロボットなどの具体的な例から共通点を探ることを目指します。

講演1 (再生医療と先端医療)

八代 嘉美 (京都大学 iPS 細胞研究所)

講演2 (生活支援ロボット)

大場 光太郎 (産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター)

講演3 (食・農分野におけるゲノム編集)

松尾 真紀子 (東京大学政策ビジョン研究センター)

講演4 (顔認証技術とスマートシティ)

岸本 充生 (大阪大学データビリティフロンティア機構)

10月末に開催される年次大会でも日本保険学会との共催シンポジウムにおいて再び、実務家の方々と交えながら、新しい科学技術のリスクを取り上げる予定です。どちらもぜひご参加ください

### 3.2 情報管理委員会より

情報管理委員会担当 臼田裕一郎

情報管理委員会では、①学会ホームページ、②メールマガジン、③ニューズレターの3つのメディアを介して情報発信を行っています。①学会ホームページ (<http://www.sra-japan.jp>) は、言うまでもなく、インターネット上の情報発信メディアです。ここでは、学会大会、行事、出版物などの情報を発信しています。②メールマガジンは、週に1回、イベント情報や募集情報などを学会員の皆様宛てにメールでお送りしてい

---

---

ます。③ニューズレターはまさに今読んでいただいているこれです。年に4回程度、「リスク放談」などの記事や委員会活動を中心にまとめております。いずれも、学会員の皆様からの情報やご提案を随時受け付けておりますので、「[mlmanager@sra-japan.jp](mailto:mlmanager@sra-japan.jp)」までお知らせください。

なお、今回のニューズレターを機に、これまで長年編集担当を努めてくださった瀬尾佳美さんがお休みに入ります。ここに感謝の意を示すとともに、お休みの間、編集を担当いただける方を募集いたします。学会活動にご参加いただける方、ぜひ上記アドレスまでご連絡ください。

### 3.3 リスクマネージャ委員会より

#### リスクマネージャ委員会担当 竹田 宜人

リスクマネージャ制度は、社会におけるリスク対応力の向上のため、当学会が運用している認定制度です。今年度の計画として、取得者の団体である、日本リスクマネージャネットワークと協働しつつ、資格更新の適切な把握など、リスクマネージャ制度の適切な運用を進めていきます。また、具体的な活動としてCPDポイント認定教育プログラムの紹介や年次大会等を活用しての発表など会員の活動を支援していきます。さらに、改修されたリスクマネージャ委員会のHP等を活用して、会員向けの情報提供の充実を図っていきます。このような資格認定制度の維持は困難な点も多々ありますが、活用に対するアイデアなどを募集しつつ、運用の継続に努めますので、今年度もよろしく願いいたします。

---

## 4. 編集担当より

#### ニューズレター編集 瀬尾佳美

##### ① 原稿募集！

このニューズレターにふさわしい原稿を募集しています！応募原稿は情報管理委員会まで

##### ② 編集後記

私事ですが、長女が小学校に入学し、我が家にPTAリスクが浮上しています。ご存知の方もおられるかもしれませんが、PTAは任意加入です。なので、必ず入会しなければならないものではなく、原則として希望者は入会の意思表示が必要です。PTAサイドは入会届けによって加入者の連絡先を入手しなければなりません。入手した情報は、今月から施行される改正個人情報保護法に基づく情報管理を行う義務が発生します。ところが、ほとんどの義務教育の学校のPTAはデフォルト加入で、なんらの意思確認もせず、給食費といっしょにPTA会費を引き落とししたりします。つまり学校サイドが名簿と口座情報をPTAに流しているのです。学校とPTAは別組織なので、学校側が個人情報を勝手にPTAに流すことはできません。(改正前の個人情報保護法でも)。なんだか先進国にいるような気がしませんねえ。

しかも、学校にもよるでしょうが共稼ぎ片親家庭にとってPTA活動の負担は決して軽くない。入会すると「一人一回は必ず役員をすること」という規約にも同意したこととなり、隔週土曜日で会合があったり、悪くすれば平日の昼間仕事を休まなければならない事態に直面します。健康上の理由なら例外が認められないこともないですが、たとえば鬱状態で・・・などという場合は、医師の診断書が求められたりします(これが回覧される)。本来災害ボランティア同様のボランティア団体のはずなのに、おそるべき同調圧力がかかる

---

---

わけです。子育てにこんなリスクがあったとは。

任意団体であるにもかかわらず、入会の意味確認がないことは裁判にもなっています。2014年、熊本のある保護者が入会の意味確認をされた覚えもないのに会費を引き落とされるのはオカシイ、と学校とPTAを訴えました（熊本地裁 平成26年(ワ)第992号）。しかも退会届を出したのに受理されず、会費を引き落としされ続けた、というのです。これに対して、2016年、熊本地裁は「退会費届けを出した、ということは入会したという認識があったでショ？」という理由で原告の主張を退けています。

入会届けがなく入会しない意思表示する方法もなく、自動的に会費がおとされていたら、「大変！退会しなければ」と届けを出す人がいることは想像できます。ヤクザな闇金みたいに法律の穴に精通しているのでない一般の人の行動としてはそれほどおかしいものとは思えませんかね。

この判決を踏まえ当職は最初から「入りません、PTAに個人情報をお渡ししないように法令順守願います」と学校側に申し入れたところ、学校から説得の電話がありました・・・いわく「卒業式で卒業証書の”筒”がもたえなくなりますよ」。

筒だよ筒！あれはPTAからの卒業祝いなのですね。全員の親から全員の子供に贈るなら、最初から各家庭から代金を集めても同じです。そのほうがイジメの原因を作ることないし真っ当（PTA会費よりずっと安い）。というわけで現在バトル中。しかし、文部科学省の違法な天下り斡旋問題で、天下り先として筑波や上智と並んで「日本PTA全国協議会」の名前が報道されてましたからね。敵は大きいようで。

以上、ニューズレター遅延の言い訳でした。長文御免

---